

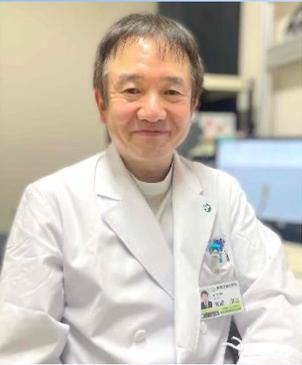
# JReport

Winter  
2024  
Vol.6

JR Tokyo general hospital  
Seasonal Magazine

新潟市中央区 朱鷺メッセ 展望室より撮影

## Medical Topics



J R 東京総合病院  
眼科  
部長  
高尾宗之

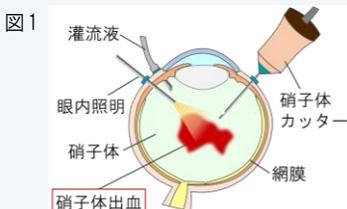
### 眼科手術の低侵襲化

前号で低侵襲の肺癌手術についてレポートされましたが、眼科においても患者さんに負担の少ない手術が行われるようになっていきます。本号では硝子体手術および緑内障手術の低侵襲化についてご説明します。

#### 硝子体手術

硝子体手術は、硝子体出血、重症の糖尿病網膜症や網膜剥離、黄斑前膜・円孔などの病気を治すために行われ、その際、硝子体を切除するためこの名称で呼ばれています(図1)。角膜(黒目)と結膜(白目)の境から3mm程度離れた場所(3~4カ所)に、外径約0.5mmの棒状器具を出し入れできる小さな傷を作成し、手術を行います。

かつては外径0.9mm程度の器具を用いていましたが、近年はこの0.5mmや、更に細い0.4mmにスリム化され(図2)、安全、精密な低侵襲手術が実現しています。また、傷を縫わずに手術を終えることが多くなり、手術時間の短縮、術後の違和感軽減や早期の視機能回復が可能となっています。



### 水晶体再建術併用

#### 眼内ドレーン挿入術 (iStent®)

緑内障の治療は眼圧下降であり、目薬を使用することが基本となりますが、効果が不十分な場合やアレルギーなどその使用が困難な場合に手術が行われます。これまでの緑内障手術では、一時的にせよ手術後に見え方が悪くなるなどの合併症や手術後の入院期間が長めであるなど課題がありましたが、近年この分野でも低侵襲化が進んでいます。今回はその中のひとつであるiStent®(アイステント)をご紹介します。

iStent®は、保険診療上、日本では白内障手術と同時に行うこととされていますが、目の中の水(房水)の流れみちにある線維柱帯(せんいちゅうたい)にゴマの粒よりもっと小さいチタン製のデバイス(図3)を留置するというものです。ステント留置により房水の排出を促し(図4)、眼圧を低下・安定させることができます。手術後の生活や目薬等は白内障のみ手術した場合と変わらず、手術前よりも緑内障の目薬を減らすことができたり、まったく必要がなくなる場合もあります。



図3  
ゴマ粒より小さなデバイス  
(大きさ0.36mm)

図4  
線維柱帯へデバイスを留置

※ 図中の黄色矢印は房水の流れ

画像提供: グラウコス・ジャパン合同会社

#### 当院眼科手術実績 (2023年1月~12月)

(総手術件数1,321件・白内障手術1,082件)

硝子体手術 154件

緑内障手術 (アイステント含む) 35件

# 臨床工学室



臨床工学室は現在、臨床工学技士5名で業務を行っています。業務内容は血液浄化業務、手術室業務、カテーテル業務、HCU業務、中央管理業務の5つに分けられます。

今回は皆さんが知っているようで知らない血液浄化業務の一つである透析について紹介します。腎不全で腎臓の機能が低下すると、身体に溜まった毒素や余分な水分を排泄することができなくなります。透析とは、血液中に溜まった毒素を取り除き、水分や電解質の調整を行い、きれいになった血液を体に戻す治療です。透析にかかる時間は1回4時間で、通常週に3回行わなくてははいけません。臨床工学技士はこの中で、透析準備、水質管理、針の穿刺、透析施行中管理、返血などを主に行います。特に透析は「穿刺が9割」と言われているほど重要で、私たちにとって一番緊張する瞬間です。

患者さまが**安心安全**に透析を受けられるように日々精進しています。

## 看護部 救急外来

当院は東京都二次救急指定病院として、救急車による救急搬送に加えて、夜間・休日など診療時間外に直接受診される患者さま(ウォークイン)の診療を行っています。救急外来で扱う疾患は多岐にわたります。また、当院に通院歴のない患者さまも多く、短時間での状態把握が求められる現場です。今回はこの救急外来で働く看護師の仕事を紹介します。

2023年1月～12月実績

救急車搬送受入れ : 4,744件  
ウォークイン受け入れ : 1,338件



### 救急外来の看護師の一日



まずは朝の引継ぎです。引き継ぎ事項を夜勤者から、また、本日予定されていることを日勤者間で、それぞれ情報共有し、その日の勤務に備えます。



救急外来には、腹痛や発熱、めまいなどの急な体調不良や転倒による怪我など多くの患者さまが来院されます。中には外国人や身寄りのない方もいるため、不安を抱える患者さまに寄り添いながら的確な診断・治療を行えるよう医師のサポートをしています。



当院では、心筋梗塞などの緊急カテーテル検査業務も救急外来看護師が担当しています。患者さまの状態が刻一刻と変化する緊張状態の中、的確な判断ができるよう医師はもちろん放射線技師や臨床工学技士など他の職種との連携も欠かせません。



### 救急外来で働く看護師にとって大切なこと

救急外来の看護師には、冷静な分析に基づく瞬時の判断力や決断力、また対応力が常に求められます。加えて、患者さまとご家族が安心して診療を受けられるようサポートできるコミュニケーション能力も必要です。いつも笑顔を決やさず、日夜、患者さまのケアにあたっています。